

令和元年度海外視察事業・上海視察報告

令和元年10月27日(日)～29日(火)の3日間、研修委員会の海外視察事業として、上海を視察してまいりました。(参加者(敬称略):安藤、松本、乙倉、中原、入矢、佐藤、津田、栗原、太田の9名)

海外視察事業の目的は、(1)日常触れられない日本以外の文化、経済、IT最先端の地を直に見聞することで、新たなインスピレーションを生む。

(2)中小企業診断士として、中小企業の海外展開支援のスキル向上、知識の蓄積を図る、を掲げました。

視察は、渡航1日目の10月27日(日)、2日目の10月28日(月)の2日間に渡って実施いたしました。2日間の視察に関しては、中国銀行(本店:岡山)上海駐在員事務所の政次康男様にご案内いただき、多くの学びをいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

【10月27日(日) 14:00～17:00】

上海浦東国際空港からマグレブ(リニアモーターカー)にて、上海中心地に移動し、ホテルにチェックインした後、視察を行いました。

・アリババが経営するスーパーマーケット『盒馬新鮮(フーマーシェンション)』



キャッシュレスで買い物ができるスーパーです。現金用レジも1つありますが、誰も利用していません。

私はオンライン注文での宅配の仕組みに興味を持ちました。

ネットで予約すると、店員さんが宅配用カバンを持って商品を集め、写真のようにベルトコンベア式にカバンを運んでいく仕組みになっています。

この後、いわゆる「運び屋」と言われる、街中をバイクで走っている個人経営の宅配業者にカバンを渡して配達してもらう仕組みです。



・ラッキン・コーヒー(瑞幸咖啡、Luckin coffee)

オンライン注文でキャッシュレス決済を行い、店舗ではコーヒー受取だけを行うビジネスモデルで店舗網を拡大している、ラッキンコーヒーを視察しました。



・世界一大きいスタバ

世界一大きいスタバである『スターバックス・リザーブ・ロースタリー上海』に行きました。巨大な建物の1階、2階全てがスタバになっていました。



・外灘（わいたん）の夜景

視察後は、外灘の夜景を觀賞しながらの夕食でした。私が7年前に見た夜景よりもパワーアップした美しい夜景になっていました。ここ数年の中国・上海の発展ぶりを実感できました。



【10月28日（月）9：00～17：00】

・JETRO上海

視察2日目は、JETRO上海を訪問し、中国・上海の経済事情についてブリーフィングを受けました。「日本企業は意思決定が遅く、ビジネス

チャンスを失っている」とのお話をお聞きし、意思決定の早い中小企業にとって、今後大きなチャンスが巡ってくるとの認識を持ちました。

・中国銀行上海駐在員事務所様

首席代表の政次康男様より、上海の経済事情について、決済の視点にフォーカスしたお話をお聞きしました。



・淵本重工業株式会社様

午後より、上海中心地より車で1時間ほどのところにある淵本重工業株式会社様（本社：赤磐市）を訪問し、総経理の池永延以様より、上海進出のきっかけや、中国での人事労務の苦勞、日本より上海のほうが良い点、などをお伺いしました。「中国では「あうんの呼吸」がない」「日本のほうが非合理、不合理的な仕事が多い」などといったお話をお聞かせいただきました。



また工場も視察させていただきました。



視察終了後に、上海近郊にある水郷古鎮として有名な朱家角（しゅかかく）を訪れました。三国志の時代から既に村が存在していた地であり、明・清の時代からの古い街並みを楽しめます。岡山の倉敷美観地区になんとなく似た景色です。



【10月29日（火）】

最終日は、中国のお寺『静安寺』と『上海タワー（上海中心大廈）』を訪れました。上海タワーは標高632mで、世界2番目の高層ビルです。



【まとめ】

上海は、日本に比べてはるかにキャッシュレス化が進み、進化のスピードの速さを感じました。また、マナーレベルが大幅に向上し、日本人を上回るマナーの良さを感じる事が多々ありました。騒音の原因だった車のクラクションが禁止され、電動バイクとレンタル自転車によって、街はとても静かになっていました。

上海の景色を眺めて、「世界から大きく取り残されてしまった日本」が思い返されました。それと同時に、「意思決定の速さ」が強みの中小企業にチャンス到来と実感しました。これからは、いかに意思決定スピードを速めて、生産性向上を進めていけるかが、中小企業経営のカギを握り、ひいては日本の命運を左右していくと感じました。

（文責：太田記生）